

# イーハトーブ

関西岩手県人会報 第8号

2007年12月12日発行

関西岩手県人会

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目3番1-900

大阪駅前第1ビル9階 岩手県大阪事務所内

Tel & Fax 06-6344-5969

発行代表者 堯 律子

編集代表者 松坂定徳

## 伊勢神宮・内宮参拝の旅

31人が参加して賑やかに行われる

今年の関西岩手県人会、日帰りバス旅行は、9月30日(日)「伊勢・内宮参拝の旅」と題して、伊勢神宮・二見が浦と定め会員募集したところ参加者31名となり大型バスで実行した。バスの乗車場所は大阪駅近くが便利との要望もあったが、大阪駅付近にはバスの発着に適した場所がなく、従来通り「大阪城公園駅前」からの出発となった。当日は朝から小雨まじりのすっきりしない天候で、参加者の脱落が心配されたが、流石に伊勢神宮を参拝される方々は、多少の天候で左右される人がなく、定刻の8時30分には全員がバスに乗り組み、出発オーライとなる。

出発とともに、主催者である熊谷事務局長・堯会長から挨拶があり、旅行会社の平和観光、近鉄観光バスの美人ガイドさんの挨拶を受けて、阪神高速・西名阪高速道路を快調に進む。美人ガイドさんの名調子の説明で、車窓を流れる処々の名勝史跡の案内を聞きながら、時にはガイドさんのクイズに答えながらバスは順調に進む。

関ジャックションで2度目のトイレ休憩。物産の下見。伊勢道に入り鳥羽で昼食。「鯛の船盛や海の幸」でビールを戴き伊勢名物の「てこね寿し」を賞味して、二見が浦の夫婦岩を見学。40年前に見た夫婦岩の印象では、遠くの海中に夫婦岩があつた記憶があり、今回新たな参道から見る「夫婦岩」のギャップの大きさに驚く。家に帰り古い参考書を見直すと…夫婦岩は海中の沖合い700メートルにあり…と書いてあるから、昔観た位置と現在の位置とでは大きく異なるのだろう。巫女さんに観光道路の完成を訊ねると14~5年前に出来たと言う。どうりで石垣も神社も綺麗である。昔は伊勢神宮に参拝される人は、二見が浦で禊をしてから参拝するのが習慣としていたと言う。見学、休憩の後、内宮参拝に向う。内宮の祭神は「天照大神」である。天皇家の先祖であり、神々の祖神でもある。日本人の崇拜する総氏神様となっている。私達の家でも三社造り神棚では、中心に祀るのが伊勢神宮の御札であり、「神宮大麻」である。



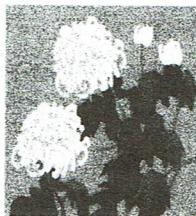
二見が浦夫婦岩前で

右に氏神様の御札、左に崇敬する神社の御札を配置するのが一般的である。バスは内宮の門前に着く。

五十鈴川に架かる宇治橋を渡り手洗場で手と口を漱ぎ玉砂利の参道を進むと左手に内宮が見える。ガイドさんに促されて二禮二拍手一拝で参拝する。

伊勢神宮は、20年に一度建て替えられる。遷宮と言う。次の遷宮は62回目で2013年なそうである。20年毎の遷宮により古代からの建築様式の技能が次世代に伝承され、日本の伝統形式が維持されていると言う。遷宮で解体された木材で宇治橋も鳥居も新調されている。内宮を参拝した後、伊勢名物を集めた名店街の「おはらい町」、「おかげ横丁」を見物し、みやげを求めて帰路のバスに乗り込む。多くの人が伊勢名物の「赤福」を求めていた。赤福本店は宝永四年(1707)の創業で300年の歴史を持つ。赤福の由来は、【赤心慶福】=(真心を尽して、素直に他人の幸せを喜ぶ)の二字を商標にしたというが、その後の報道で偽装問題が発覚、この精神と店の信用を根底から覆してしまった。

バスは小雨の道を往路と逆に進む。高速道路に乗る前に少し渋滞したが、予想以上に順調に走り、予定時間を大幅に短縮して、大阪城公園駅前に無事到着した。バスを降りると雨も上がり土産を抱えた参加者は、それぞれの方向の家路に着いた。(報告:松坂)



## 宮沢賢治忌法要 盛大に執り行われる

関西宮沢賢治の会

会長 小野誠

9月21日は昭和8年に亡くなった宮沢賢治のご命日で、毎年比叡山延暦寺が根本中堂前の賢治の歌碑の前で法要を行なっておりますが、今年は75回忌の節目の年であり、この法要に関西岩手県人会の下で再興なった「関西宮沢賢治の会」の会員30余名が参列しました。歌碑の前と階段の下には祭壇と参列者用の椅子が用意され、延暦寺側の例年ない力の入れようには大変感激致しました。

花巻市の宮  
沢家から寄  
贈された菊  
の花と賢治  
の会が用意  
したリンドウ  
の花が飾ら  
れて彩り豊  
かな祭壇の



前で、佐々木光澄導師と4名の出仕の読経の中、堺県人会長以下参列者全員の献花・献香が厳かにとり行なわれまし

た。

次いで、星野裕美子さんの「雨ニモ負ケズ」の朗読や、岩大農学部同窓生による寮歌合唱などで法要に花を添えました。終わりに佐々木導師より、賢治の会の再興が喜ばしいこと、賢治の世界観や最近の世相を憂うなどのご挨拶を頂戴致しました。

午後は、いつも賢治忌法要のお世話を下さっている横山照泰師から「延暦寺における宮沢賢治歌碑建立のいきさつ」と題して法話を頂き、また会長の小野から故平澤農一氏と賢治忌の関わりについて解説致しました。

終了に際し、参加者の皆様に菊の花や岩手ゆかりのリンドウの花をお持ち帰り頂きました。

来年平成20年9月21日は日曜日です。多くの方々のご参列を期待しております。

### 刑法の先覚者

芦東山

松坂定徳

俺方(自分の生れた地方=岩手県)には、偉い人がたくさん居ます。誰でも知っている近世・近代で日本を代表する医学界では(建部清庵・大槻玄沢・高野長英・杉田伯玄など)政界では(原敬・斎藤実・後藤新平・東條英機・米内光正・鈴木善幸)軍人では(板垣征四郎=陸軍・及川古志郎・米内光正=海軍)文壇では(山田美妙・宮澤賢治・石川啄木)も居れば学者では(大槻磐溪・新渡戸稻造・田中館愛橘・金田一京助・大槻文彦)等もいる。立派な功績を挙げている偉い人でも、一部の人達にしか知らない人もいる。例えば芦東山(あしどうざん)・小田為綱(おだためつな)・鈴木倉定(すずきいえさだ)・那珂通世(なかみちよ)・大島高任など有名な方々であるが、どれほどの方に知られているであろうか。その中の一人に私が子供の頃に聞いた「芦東山」がいる。なぜ知っているかと言うと、お婆さんが冬の夜長に炉辺の焚き火を囲んで、或は、炬燵に中っている時などに様々な物語を話して呉れたものである。その中の一人が【芦東山】であった。なぜ、お婆さんが芦東山を話して呉れたかと言うと、祖母の生れた里が東磐井郡大原村(一関市大東町)で、ここで生れたのが岩淵幸七郎であり、後に「芦東山」と言う偉い儒学者になった人である。幸七郎7歳の時、正法寺(しょうぼうじ)住職第23世定山(じょうざん)和尚に、9歳で祖父が招いた桃井素忠と言う僧侶に学んだが、仏教の高級趣味には馴染めなかった。仙台に出て田辺希賢に学び、京に出て朱子学の大家・山崎闇斎門下の三宅尚斎先生に学び、独自の考えを貫き、若くして仙台藩五代・伊達吉村公に講義し、藩校の教授方を務めた。お婆さんは東山先生の事績と人柄を直接お会いしたかのように、親しみを込めて情景が見えるように話すのである。

そんなに偉い先生なら誰でも知っているだろうと友達に聞いてみた。ところが知っている人は一人も居ない。大人の人

なら知っているだろうと、何時も床屋で将棋をしている顔見知りの小父さん達にも聞いてみたが、これまた知っている人が一人も居ない。そこで私が勝手に判断した。お婆さんは、自分の生れた里の偉い先生だから子供の私に解るようにわざと面白く、特別偉い人に祀り上げているのだろうと思っていた。殆んど忘れかけていた昭和25年頃に岩手日報の連続コラムに岩大教授の森嘉兵衛先生が「岩手を作る人々」と題した「岩手県の歴史」を書いておられた。その文中で「金山興隆」の項目で、我家の先祖・松坂徳右衛門定久の名前を見付けたことから関心を持って毎日見るのを楽しみにしていた。後半の頃に岩手で自慢できるものが2つある。一つは“平泉の金色堂”で、もう一つは“芦東山の思想”である。と絶賛していた。お婆さんの話していた「芦東山」は本当に立派な学者なのであると再認識した。それからは、お婆さんに輪を掛けて「芦東山」を宣伝するようになった。

芦東山は、儒学者でありながら医者であり、教育者であり法律家でもある。飢饉の時には救民の思想を持ち、村人の命を繋ぐために、本草学を教え木の実や山菜の食べ方、渋みや毒素のぬき方を指導。武士にも養蚕や作物の育て方を指導し、武士であっても自活する必要性を説き、労働によって生活の糧を得ることを勧めた。芦東山の偉いところは、江戸中期の時代にありながら、四民平等を唱え、君主も村人も人間としては同じであるとの立場を堅持して実践したことである。決して他人の論説に惑わされることなく、頑なとも言えるまでに自己の信念で主張を通した。特に学問にあっては、士農工商の身分に関係なく、また、親の地位や貧富に関係なく、自由に講義を聞くことを認め、学ぶ意欲と学習成果によって順番を決め、従来の慣習である親の身分で席順を決めることには賛成せずに、家老や石高に関係なく学問の成績一つで順番を決めるべきであると主張した。藩の方針であっても学問については、一歩も道理を譲らない強い信念の持ち主であった。藩政についても誤りは正すべきであると遠慮なく建言した。人間として生きる権利を堂々と述べる芦東山。民主的な思想を持つ学者が伊達領内に居ることを知られることを怖れた五代藩主・伊達吉村公は、元文3年(1738)加美郡宮崎村の奉行職五千石の石母田長門頼在の屋敷に閉門蟄居を命じた。東山43歳の時であった。

閉門された東山は、有り余る時間を藩主と参勤交代で江戸に同行した時に徳川家の儒官・室鳩巣から特別に依頼されていた“日本の刑法典”の編纂に取組んだ。中国4千年の刑法を考究するため、あらゆる書籍を取り寄せて読破して、宝暦元年(1751)56歳の時、「無形録」15巻を完成させた。この年、藩主吉村公は亡くなられたが、六代藩主・宗村公に芦東山の幽閉は決して許してはならない、と遺言したと言う。宝暦5年(1755)「無形録」18巻を完成させる。室鳩巣先生に頼まれてから34年目。幽閉されて17年目の快挙であった。

# ふるさと便り

## 前沢牛14年ぶり日本一

和牛枝肉の日本一を決める全国肉用牛枝肉共励会(東京食肉市場主催)で、奥州市前沢区の畜産業後藤久治さん(62)が出品した前沢牛が、和牛雌部門で最優秀賞に選ばれた。前沢牛の同部門1位は14年ぶり5度目。全国的に知名度がある前沢牛だが、最高の称号を得たことで、さらなるブランド化へ弾みがつきそうだ。後藤さんが出品したのは3歳牛「はなふく」号で、枝肉は425キロ。光沢が良くサシが豊かに入ったきめ細かい肉質が評価された。審査会に続いて行われた競りでは、1キロ当たり1万1002円の高値で、東京の仲買人に落札された。通常、前沢牛は1キロ当たり3500円前後、他産地の牛肉だと2500円程度が相場とされる。後藤さんは、昨年の同大会でも2位相当の優秀賞一席に入賞している。悲願の最優秀賞獲得に「まれに見る良い牛で、昨年を上回る成績を残せた。入賞するような一頭は簡単に育てられるものではないが、受賞を励みに頑張りたい」と喜ぶ。

## 特産セリの出荷始まる 北上・江釣子

冬野菜の一つで、鍋料理の脇役として欠かせないセリの出荷が、北上市江釣子地区で始っている。数十カ所を超える湧き水が点在する同地区は、古くからセリの名産地として知られる。例年11月上旬から収穫作業が始まり、需要が高まる年末年始に向けて最盛期を迎える。江釣子セリ生産組合長で、同市下江釣子の佐藤光子さん(65)は、11月12日早朝、自宅近くにある農地で今シーズン初の収穫を始めた。9月に苗を植え、30センチ以上に成長。例年に比べて生育、品質ともに上々だという。

—何れも岩手日報WEB版から

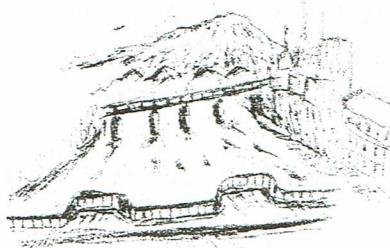
## 岩手の自慢400字

### (5) 盛岡自慢

盛岡に勤務中、急遽転勤辞令で大阪行きを命じられ、2~3年の予定が、何と定年まで勤務、40年が過ぎ完全に永住を決め込み今日に至っております。

私が若干14歳の頃、本宮村に住み、「原敬邸」宅の前を通り仙北町を経て、盛岡の下の橋高等小学校に通学していました。その時の思い出が、あれから70年近くなるのに脳裏から消えず投稿しました。その頃仙北町と盛岡を結ぶのは、

北上川に架かる「明治橋」でした（現在はバイパス道路が出来ている）。当時としては近代的な素晴らしい橋だと記憶しています。学校まで60分もかかり、明治橋まで来てやっとホッとしたものでした。その明治橋から眺める四季折々の岩手山の雄姿が「自慢」の美辞麗句を惜しません。10月の晩秋に近い頃、初冠雪の姿などは、視界に入る盛岡駅の周辺などコントラストの素晴らしさにも助けられ、形容詞の言葉さえ見つからなかったと思いました。ご存知の通り、盛岡には歴史的にも観光的にも数多くの名所旧跡がある中で、明



筆者スケッチ

だったと思う。実姉が盛岡に在住しており、2年前に上盛した時も、自慢の明治橋に立ちながら、しばし・「やはり素晴らしい」を声に出して確認いたしました。皆様も機会があれば是非明治橋から岩手山と周囲のコントラストを合画して見て下さい。きっと新しい歴史が生まれると信じます。

佐々木登(筆者只今齡 80)



第 87 回全国高校ラグビー大会県大会の決勝は 10 月 21 日 盛岡市の盛岡南公園球技場で行われ、盛岡工が黒沢尻北に 75-5(前半 40-5)で圧勝、2 年連続 33 度目の優勝を飾った。盛岡工は 12 月 27 日から大阪府東大阪市で開催される全国大会に出場する。昨年の花園は、ノロウイルスが原因の集団食中毒で力を出し切れず初戦敗退。今年は FW、バックスともにバランスが取れたチームで雪辱を期す。前回花園を経験した高城主将は「昨年の悔しさを晴らす。ベスト4を狙う」と闘志を燃やしている。盛岡工は B シードとなり、2 回戦から登場、平工(福島)と和歌山工(和歌山)の勝者と 12 月 30 日 12 時 45 分から、第 3 グラウンドで対戦する。この試合を勝ち上がると、3 回戦は順当に行けば前回優勝の強豪東海大仰星(大阪第1)とベスト8をかけて激突する。(1 月 1 日 11 時 45 分から第1グラウンド)。盛工フィフティーンに熱い声援を送ろう。まずは 12 月 30 日花園へ大挙して応援に駆けつけましょう。

花園ラグビー場 近鉄奈良線「東花園駅」下車徒步 10 分



### 北東会ゴルフ大会 本県6位

● 10月18日秋晴れの好天の下で北海道と東北6県各団体による第21回の対抗ゴルフ大会がタイガースゴルフ場にて(総数81名の参加者)開催され、わが岩手県チームからは9名が参加し優勝をめざして健闘したが、残念ながら団体戦は第6位と振わなかった。団体戦の順位はダブルペリア方式で上位5人のネットスコアの合計で決定となったが山形県が僅少差で幹事県の秋田県と競り合って優勝となった。

個人選で健闘したのはわが県では例年のように柏山喬氏でグロス82、ネットで惜しくも第2位であった。

団体戦で優勝した山形県は昨年もそうであったが参加 14 名中女性の選手 6 名、このうち 3 名が団体戦の優勝に貢献していた。山形県のゴルフは女性が支えていると彼女達が豪語していたのが強烈な印象であった。

わが岩手県は次回の幹事県となつたが、本会がスターした頃の常勝岩手県をめざして頑張りたいものである。そのためには、女性を含め新たに多くのメンバーに参加して戴く必要があると思われます。(熊谷克己 記)

## 「逆転の花巻東」逆転ならず無念

岩手県大会では粘り勝ちを収めて「逆転の花巻東」と謳われた花巻東高等学校は甲子園では、新潟県代表「新潟明訓高校」との対戦となり、3日

日(10日)第4試合に 声援を送る県人会応援団  
出場した。関西岩手県人会の役員達は例年の通り、応援に駆け付ける県民のために、試合開始1時間前まで高速道路下で県人会の人達を待ち入場券の配布を行った。  
(これからも同様の方法で入場券の配布を行いますので県人会の旗を目印にお出掛け下さい。或は、県人会事務所にお問合せ下さい。)

試合は新聞、テレビで報道された通り0-1で敗れたが、4回裏1死二・三塁から2死満塁となったが先制の好機を掴めなかった。逆に5回表1点を失い、菊池啓晃(3年)菊池雄星(1年)の好投により最少点で反撃を待ったが打線が振るわず14三振を奪われ、好投投手の援護ができなかった。県人大会有志は甲子園駅前で残念会を開き銳気を養い帰路に着いた。



## 「第1回アテルイ・モレ祭」に出席して

松坂定徳

日本の正史「日本紀略」の延暦21年(802)8月13日の条にアテルイ・モレ等を河内国植山(枚方市牧野地区)にて斬る。とあるのを請けて、伝承されてきた「アテルイの首塚」に本年3月4日「伝・阿豆流為 母禮之塚」(清水寺森清範貫主揮毫)の碑を建立したのを受けて、命日の9月23日(日)「第1回アテルイ・モレ祭」が枚方市牧野公園で行われた。午前9時から片埜神社岡田宮司による神事が行われ、10時から地元の笠井社中による「御神楽舞の奉納」があり、中学校のプラスバンド部の演奏。幼稚園児・小学生の祭囃子等の奉納。学校でアテルイを習った感想文の披露もあり、地域の子供達もアテルイを身近に感じていることを知り嬉しかった。特に「アテルイが自分を犠牲にしても部下の命を守ろうとする優しい心を持った人」と受け止めていることに新しい教育の芽生えを感じられ、胸を打たれる場面もあった。

全体として法要や慰靈祭という雰囲気よりも、アテルイ・モレの塚の前に集り古代文化に触れ、賑やかに踊る市民祭に発展する雰囲気であった。(関西アテルイ・モレの会)

## 「アテルイ・モレの碑」清水寺法要

### 今年も盛大に行われる

去る11月10日午前11時より清水寺の「阿豆流為・母禮之碑」前で第十四回「アテルイ・モレの碑」法要が行われた。今年の法要も奥州市から岩井憲男副市長を始め、胆江日日新聞社が企画したバスツアーで26名が参加され、関西地区から41名(茨城・千葉・静岡各1名を含む)が参加した。從前の会員名簿(建碑寄付者)の方は高齢者が多くなり、気持の上では参拝の意思があっても、肉体的に無理が利かない状態となり、「関西アテルイ・モレの会」の体質改善が必要となり、「会」を維持存続する会員が必要となり、正会員制度(年会費千円)を導入し、且つ、会員の増強と安定した運営を維持する体制を整えたいと考えています。

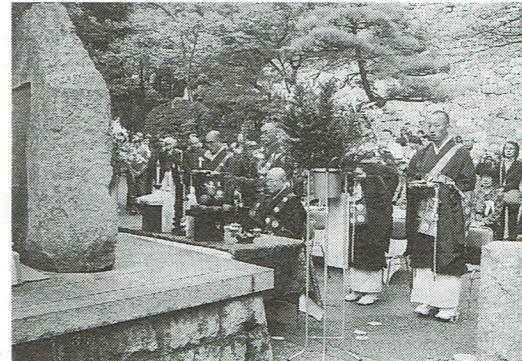
昨年から正会員増員運動の結果52名の協力者があり、その成果もあって今年は関西から40名以上の参加がありました。勿論「正会員」でない方でも法要懇親会に参加される方は大歓迎であります。

法要に参加されますと2つの特典があります。

1つは一般の拝観では公開していない境内の「お堂内部」や「施設」を特別に拝観することができます。今年は「成就院の庭園」を拝観させて頂きましたが、この「庭園」は相阿彌の原作を小堀遠州が補作、或は、松永貞徳作と言われている名園であり、二度、三度目の拝観の方でも決して飽きることの無い名園です。成就院の庭園は、池に月を映して觀賞するところから「月の庭」と言われる名園であり、名勝に選ばれ

ている庭園であり、何度拝見しても奥深い庭園であると言われています。

もう1つは、森貫主の法話を直接拝聴できることです。今年の法話は、清水寺の創建当時の法話でした。要約して記述すれば、…清水寺にお参りして先ず目に入るのは日本最大級の「三重の塔」である。最初に出来たのは嵯峨天皇の祈願によって建立された承和14年(847)の創建である。



清水寺は戦渦、争乱に巻き込まれ何度も焼失しては再建されている。奈良の興福寺との関係から法相宗

であり、南都北嶺の抗争により、奈良の興福寺と比叡山延暦寺の抗争により焼失している。南都の僧が、談山神社を攻撃すれば、比叡山の僧が清水寺を焼討ちする。だからと言って比叡山を恨んでいるわけではありません。と森貫主一流のユーモアを交えて聴衆を引き付ける。

奈良仏教と平安仏教の違いや大衆信仰、古典文学にも現れる清水寺などを話された。また、承久の乱や大きな戦渦にも巻き込まれて本堂、釈迦堂、三重の塔等も焼失する。

「三重の塔」は梵語でスツーパと言う。スツーパにはお釈迦様の遺骨を祀っている。塔の下の丸い部分に舍利を収めている。日本語に訳して卒塔婆、塔婆、塔となる。塔は墓であり塚である。「碑」も塔婆や塔と同様に墓と考えられる。総ての物に靈魂があり、魂は不滅であり大自然に帰ると信じられているのが神道である。仏教では、死亡すると悟りを得た仏になると信じられている。これらが神仏集合であり日本人の宗教心である。皆さんが遠くから清水寺にお出掛け下さり、千二百年も前のアテルイ・モレと坂上田村麻呂の縁を結び顕彰に来られたことに感謝しています。と。

その後、小瀬川会長の挨拶、岩井副市長・佐々木胆江日日新聞社社長・及川アテルイを顕彰する会会長の祝辞があり、今年も清水寺から寄付して頂いたビールで再会を祝し、健康を願って堯会長の発声で乾杯した。お酒や食事を戴きながら暫く懇談したあと柏山副会長の第十四回の法要に参加されたお礼と来年も元気でお会いしましょう。との呼び掛けで幕を閉じた。

「報告・松坂定徳」

## 平成19年度「桐の会」の御報告

溝井 まさ

前日まで、何度確かめても「雨」…の予報に多少ならずガツカリ…でも…「降りこむ」とも云うし…などなど・なんとか納得したい気分で迎えた11月30日。

雨戸を縁つた目に飛び込んだのは！！叩いたらピ～ンと音のしそうな…素晴らしい初冬の空！！でした。うう～～ん、こんな素晴らしい天気は1年にそうそうはナイ！

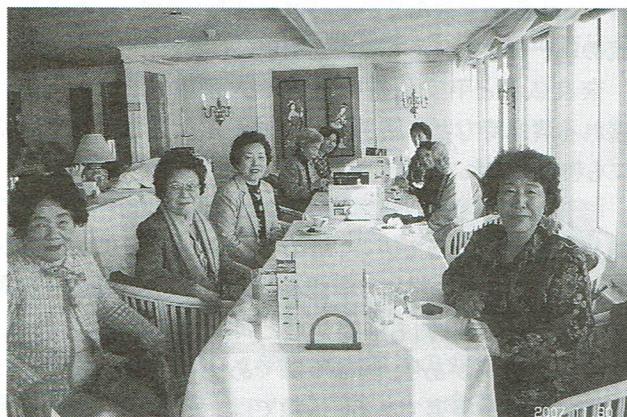
集合時間は11時15～30分なのに一刻も早くと、張り切って10時50分には神戸駅に着いた。心は皆同じ？か、それから20分後にはぞくぞくと懐かしい顔、顔、顔。

一年振り二年振りで握り合う手のなんと暖かく、懐かしいことか…み～んな ワ・カ・イ！！！

「マンツ」「マンツ」「なは～～ん」と…後の言葉はもうなにも、イラナイ。

全員揃ったところでハーバーランドのビルの18階から実に、320度の眺望を満喫。眼下の海はゆったりと深緑の息をし、海までの白い道の両側の木々は小金色にささやき合う。碧い海の向こうには神戸空港の飛行機が初冬の光をうけて、ときおり、ワインクでもするかのようにキラリキラリと光る…まるで大きな動画だ～…。「外国に行ったようだア～」と景色に満足し、今度はお腹にも満足をと、「かに道楽」へ。

ワイワイと昼食のかに料理を堪能したあと、愈々クルージングへ。レツツゴウ！！！



コンチエルト船内の喫茶室で

皆で先ほど18階から眺めた「絵画の世界」の中の一員となり、黄金の道を通りぬけて船の人と成るべく足取りも軽く船乗り場へ、皆、少年少女のように輝いている。午後3時のコンチエルトで船の人となり、モツタイナイような天気だと、甲板に席を構えた。サテ、ここでMr.熊谷のバリトン張りの歌声に私達・魂を抜かれた～～。アンコール！！アンコール！！！を繰り返し、流石のバリトン氏も、ムムウツ？？？

甲板で1時間半のクルージングは…「少しばかり考えエバ」と喫茶室へ移り、美女の、フルートの生演奏に和されながら船上から眺めた明石大橋までの夕景は、これまた一入…磨かれたような海面にのびる光の道…くれなずむ、内海を初冬の夕日に曳かれるようにゆったりと行き交う船影…なんとも、ス・テ・キな一日でありました。

この度ご都合の付かなかつた方、次回は是非是非ご参加下さいネ。ご一緒に楽しい一時を過ごしましょう。暖かい手の温もりを貴方にも。次回『桐の会』に乞うご期待！！

## 平成20年新春懇親会



平成20年新春懇親会は、1月27日(日)、「アサヒビアレストラン スーパードライ梅田」で行われます。日頃会って話す事があまり無い故郷の仲間達と、久々に、ざっくばらんに岩手の話をしませんか？多くの皆さんのが参加をお待ちしています。

日時：1月27日 午後1時～

場所：アサヒビアレストラン スーパードライ梅田

TEL. 06-6311-2829

大阪市北区西天満4-15-10

ニッセイ同和損保フェニックスタワーB1

(梅田新道東南角)

JR環状線大阪駅徒歩10分

地下鉄谷町線東梅田駅徒歩5分

JR東西線北新地駅徒歩5分

地下鉄御堂筋線梅田駅徒歩10分

会費：6000円(福引き、お土産あり)

## JENGO年末大感謝祭

「きた東北発見プラザJENGO」が年末大感謝祭を行う。期間中は商品が10%割引されるほか、地酒の試飲、特產品の当たる大抽選会(1000円に1回)、日替わり三県鍋など盛り沢山。年末の郷土の味の買い出しありで。

会期：12月14日(金)～16日(日)

JENGOへのアクセス

地下鉄御堂筋線、長堀鶴見緑地線「心斎橋」駅下車

2番出口から徒歩3分。クリスタ長堀・月見の広場北7番出口前。(東急ハンズ東隣り)

### 事務局掲示板

関西岩手県人会の事務所で、「岩手日報」を何時でも閲覧出来ます。ふるさと岩手のニュース満載の“日報”を是非読んでいただきたいと思います。毎週水曜日に県人会のスタッフが出勤しています。梅田界隈にお越しの節は、ぜひお立ち寄りいただき、岩手日報を読んで、郷里の空気に触れていただくとともに、近況をお知らせいただきたいと願っています。

関西岩手県人会事務所は、大阪駅前第1ビル9階、北東北三県合同事務所・会議室です。どうぞお気軽に立ち寄り下さい。